

第584号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2017年11月16日
発行責任者 喬木村公民館長 徹
市 瀬 編集責任者 公民館編集部 志
仲 田 久 印刷 龍共印刷株式会社

秋のスポーツ特集

テニス中学生団体戦で 喬木中が北信越大会に出場!



十一月四日(土)、福井運動公園テニス場(福井県)にて『北信越中学校選抜新人テニス大会・団体戦(兼全国選抜中学校テニス大会・北信越地域予選大会)』が行われ、喬木中学校男子八名(たかぎスポーツクラブ所属)が出場。喬木中男子は、九月二十三日に行われた長野県予選で二位となり、当大会の出場権を獲得しています。また、大会出場メンバー以外にも、たかぎスポーツクラブジュニア部門に所属する十三名の子も出場選手をサポート、そして自身自身のレベルアップの為に前日の合宿から参加し、全員体制で大会に臨みました。大会は、ダブルス二試合、シングルス一試合を行い、二試合を勝った学校の勝利となるトーナメント形式。大会当日は、強く吹く北風や

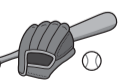
雨の影響で試合開始が三時間以上遅れ、大変過酷な環境のもとで行われました。喬木中の初戦の相手は石川県代表の金沢市立緑中学校。喬木中は、シングルス：伊奈雄大選手、ダブルス一：宮澤晶紀・牧内たいむ両選手、ダブルス二：熊倉琉聖、宮島樹両選手でオーダーを組み、挑みました。シングルス一は大変ハイレベルな戦いとなりました。初戦というところもあって緊迫感のあるゲームが展開されましたが、惜しくも敗戦。同時に行われていたダブルス一は、宮澤・牧内ペアが危ない試合運びで六一の完勝！勝利は最後のダブルス二の試合に持ち込まれました。両チーム関係者全員が見守る中行われたゲームは、一進一退の好ゲームとなりましたが、最後は相



北信越大会出場を決めた際の集合写真

手力が上回り、三―六で惜しくも敗戦。合計一勝二敗で敗退となりました。一致団結して臨んだ北信越大会、二位以内に入つて全国大会出場を目指していましたが、残念ながら届きませんでした。しかし、北信越大会のレベルを全員で感じる事ができたことは、必ず次へのステップに繋がることでしょう。次の春、夏の大会では女子も北信越大会出場を狙っています。また、先輩達の姿を見た小学生の選手達も刺激を受けました。喬木のテニスのますますの発展が期待されます!

夜間ソフトを終えて 上平龍王



平成二十九年度第四十三回大会リーグ戦において上平龍王が十五戦全勝で優勝することができました。昨年の閉会式で、池田監督より全勝優勝で連覇すると公言したことにより、今大会はプレッシャーのかかる試合が多くありました。特に伊久間カッターズ戦は実質、優勝決定戦ともいえるどちらのチームが勝つてもおかしくない、一点を争う好ゲームとなりました。夜間ソフトボール連盟の中でもゲーム中にサインプレーをするチームは少ないとは思いますが、上平龍王では監督よりサインが出ることで引き締まった試合となり、すべての対戦相手に全力プレーで勝利を目指した結果が全勝優勝につながったと思います。更に、夜間ソフトボールに参加することで、十代から七十代まで幅の広い年齢層で交流が出来るのは貴重であるため、多くの方の参加を期待します。(上平龍王)

が東京牛込で没しています。明治維新は知久家にとつて困窮の基となったが、知久氏の旧恩を忘れない家臣団、領民は恢復の義捐金募集に奔走し、郭「西宮社」に「知久氏恢復の碑」が建設されました。知久家の歴史保存会発起人一覧や「諸名士芳名録」の一覧には、知久家親戚は勿論旧信濃国出身者を中心とした、政府要人、議員、軍人、官僚、学者、地元教育者、旧領民等の人々が名を連ね二八〇人に及びます。信濃の名族である知久氏

知られざる旗本阿島知久家の明治維新 「知久氏恢復の碑」

文化財保護委員 市瀬辰春

江戸時代末、阿島三千石領主が廃藩置県により解体され、阿島陣屋の建物では茶室「曙月庵」は、最後の領主となった十一代知久頼謙と妻瑛の住居として奇跡的にも残されました。頼謙は、慶応四年(一八六八)明治元年、新政府へ早期に帰順し、明治二年の禄制改革により土族となつた知久家でしたが、明治四

年伊那県へ帰農願いを提出。明治六年正月には家禄を奉還し平民の籍に入っています。知久家の衰頹は、明治維新を契機に経済的困窮が始まります。この裏には、帰農後に旧臣と始めた製糸会社の倒産が原因となつています。借財返済のために家財を売却。頼謙は、嫡子萬松(知久十二代頼温を喬木

村に残し東京へ移住し経済的困窮を脱しようと、職探しや親戚関係を頼り援助を受けています。親戚関係には、妻瑛は日向国(宮崎県) 飢肥伊東藩主二女、頼謙の祖父頼行(知久家九代当主)、父頼匡(知久家十代当主)はいずれも水戸藩連枝の藩からの婿養子であり、交代寄合知久家は数多くの大名家、大名家老、高家、交代寄合などと親戚関係であった事が分かります。また知久家は百名以上の家臣団により構成され支えられていました。し



知久家恢復の碑

かし明治になり、莫大な出費が嵩み家臣団も維持出来ず、領主の苦しき胸の内が察せられます。明治二十五年には頼温が若くして病死し、旧家臣により葬儀が執り行われ、五年後の明治三十年には頼謙

が東京牛込で没しています。明治維新は知久家にとつて困窮の基となったが、知久氏の旧恩を忘れない家臣団、領民は恢復の義捐金募集に奔走し、郭「西宮社」に「知久氏恢復の碑」が建設されました。知久家の歴史保存会発起人一覧や「諸名士芳名録」の一覧には、知久家親戚は勿論旧信濃国出身者を中心とした、政府要人、議員、軍人、官僚、学者、地元教育者、旧領民等の人々が名を連ね二八〇人に及びます。信濃の名族である知久氏

由緒の保存顕彰が多くの人々に幅広く支持されたいことが明らかです。知久氏の恢復を願った幾多の魂の宿る碑が、今は忘れられたように建っているのを知って貰いたい、尋ねて頂きたいと願うものです。



優勝上平龍王(表彰式にて)

あの時

秋の風物詩、あちこちに柿すだれがさがっている。我が家も昔から干し柿づくりをしていた。子どもの頃は家族揃って夜なべ仕事で皮を剥いた。初めの頃は包丁だけだった。小学校の低学年だった私も滑る柿と格闘しながら皮を剥いた。皮が途中で切れずにどれだけ長く剥けたかを姉と競争しながら皮を剥いた記憶がある。しばらくすると、柿のほぞを包丁でとり、三本の針に柿を刺してハンドルを回し、ペーラーを柿に当ててクルクル回しながら剥くようになった。ほぞを包丁でとると、柿剥き器を回して剥く人と分業するようになり、私は専ら柿剥き器を回す分担当だった。その後、ほぞとりから柿剥きまでを一気に行ける機械が導入され、干し柿の出荷量が増えいった。市田柿は今年度から地理的表示(GI)保護制度の登録産品となった。市田柿が有名になるにつれて衛生管理や製品管理が厳しくなり、加工には随分気を遣うようになっていたが、さらに明確な基準が定められた。栽培日誌の提出、作業場や柿干場などの加工施設のチェック、加工履歴や衛生管理のチェックなどを行うことも義務づけられた。

市田柿を地域の財産、ブランドとして守っていくためには必要なことだ。しかし、農業従事者の高齢化を考えると一人での対応には限界があると思う。私はまだ何とか対応できると思うが、十年、二十年先はわからない。心配だ。(館長)

第22回 村民ゴルフ大会



分館対抗の第二十二回村民ゴルフ大会が十月二十四日飯田カントリークラブで開催され、十二分館より十九名が参加して行われました。

当日は、季節外れの大型台風が去った後での開催となりました。

農作物の被害に遭われた方は参加出来ませんでした。お見舞いを申し上げます。

今大会は、ダブルペリア方式で各分館上位五名のネットスコアの合計で順位を決めました。

競技終了後、福祉センターにて副村長、公民館長さんを来賓に表彰式が行われました。

今回は、大和知・氏乗分館が主幹を務めさせていただきました。

各分館の方々の協力で無事終わることができました。事を厚くお礼申し上げます。

- 成績は、次の通りです。
- 個人の部 男子
六十歳未満の部
優勝 西村 博之さん
六十歳以上の部
優勝 吉川 正隆さん
個人の部 女子
優勝 松葉美智子さん
- 団体の部
優勝 伊久間分館
準優勝 北分館
第三位 上分館



団体の部 優勝「伊久間分館」の皆さん

私は、十月一日から三日に愛媛県で開催された第七十二回国民体育大会剣道競技に出場してきました。

この大会は、先鋒二十五歳未満、次鋒二十五歳以上三十五歳未満、中堅三十五歳以上四十五歳未満、副将四十五歳以上五十五歳未満、大将五十五歳以上と、五人制の団体戦で各県が競い合います。

四月二十三日に県の予選会があり、各部門でトーナメント戦が行われ、私は三番手の中堅の部で優勝し長野県代表になることが出来ました。高校を卒業してから挑戦し続けて初めての出場になりました。

今回、総合開会式から参

第七十二回 国民体育大会に出場して

熊谷 伸 昭

加しました。天皇陛下の天覧、盛大なセレモニー、出場して国民体育大会の偉大さ、出場することの誇りを改めて実感しました。

試合は一回戦で岐阜県と対戦しました。内容は先鋒が負け、次鋒が勝ち、中堅の私は胴を取られ負け、副将が勝って大将戦までもつれましたが、大将が接戦の末負けてしまい、二勝三敗で一回戦敗退でした。残念な結果でしたが、国体の素晴らしい舞台でまた試合がしたいという思いと、これから剣道を通じていく新たな目標が出来ました。

私は喬木の剣道クラブで

子供達に指導をさせていた。今年で四年目になりました。週に火曜日と土曜日の二回の稽古ですが、厳しい稽古を子供達は一生涯懸命やり急激に実力をつけてきています。各大会でも個人戦優勝や団体戦準優勝など結果が出てきています。今回の経験を活かして、さらに子供達の指導に力を注ぎたいと思います。

このクラブの子供達から全国大会へ出場できる選手を育てることが私の新たな目標です。

最後に、この剣道のできる環境を与えてくれた、喬木剣道クラブの先生方、子供達、保護者さん、練習



長野県代表チーム集合 (右:熊谷選手)

の騒音を温かく見守っていただきありがとうございます。近隣住民の方々、そして家族に本当に感謝しています。今、剣道クラブは習いに来る子供達が段々と増えて賑やかになってきました。これからも皆様に良い報告ができるように頑張っていきます。応援ありがとうございます。

雨続きだった十月も終わり、十一月は天候もおちついていて秋の味、つかの間の秋を楽しんでいる。

家の柿も赤くなってきたので、干し柿作りを始めた。何も手入れをしていない柿なので小つぶで量も少ない。自家用なので皮をむいて軒先に干すだけ。それでも一様秋の風物詩ということにした。

リニアの建設もだんだんと進み始めている。「本当にリニアが来るんだ」と思う。先日山梨のリニアの高架橋を見る機会があった。「喬木にもこれが立って行くのか」と思った。これからの事をいろいろ想像してみたい。

編集後記

たかぎ短歌会 水無月歌会詠草

その昔炭焼きし峡の迷い沢
清流今は村中の蛇口へ

雨上がり窓辺に寄れば聞こえる
秋を楽しむコウロギの声

病院の狭き個室にて翁逝く
静かにしずかに眠るがごとく

バスに乗る三歳園児の愛らしき
無邪気に話す瞳輝き

くりん草に憑かれし翁精込めし
花の咲くのを待たず旅立つ

鳥避けの糸張られたる稔り田に
スズメの群れは難なく降りる

多田 昭
稲刈機巧みに操り足早やに
行き来する息子は額に汗し

桐原 邦夫
猫にやんに座椅子をとられ仕方なく
床に座れば冷え冷えと秋

知久 美子
勤務への門出に見送る花の名は
見目美しき 凌霄花

小椋 りよ
寮の庭夾竹桃は咲き盛り
朝餉の空をホトトギス渡る

市瀬 准子
教えたり頼りたりして盆休み
孫子等と採る出荷の胡瓜

木林 睦枝
苦瓜のあのほの苦さが馴染めない
今年も数多軒にぶらぶら

田中 妙子
夫植えし秋海棠が咲き盛る
仏間に活けて彼岸迎える

木下 寿子
猫にやんに座椅子をとられ仕方なく
床に座れば冷え冷えと秋

関島 春子
剪定を成せずにあれば柿の実の
数多つきあまる折れたる枝に

元島 康子
勤務への門出に見送る花の名は
見目美しき 凌霄花

原 健彦
寮の庭夾竹桃は咲き盛り
朝餉の空をホトトギス渡る

大村 初見
教えたり頼りたりして盆休み
孫子等と採る出荷の胡瓜

内山 和子
苦瓜のあのほの苦さが馴染めない
今年も数多軒にぶらぶら

福澤 亀人

第1回 たかぎスポーツクラブ杯 9人制女子バレーボール大会開催!



優勝 「ThRough」 チーム



準優勝 「町with愛」 チーム

公民館活動の見直しの一つとして、体育部の分館委員の負担軽減を図るため、今まで行われてきた分館対抗女子バレーボール大会を、とりやめることになりました。

しかし、村内にバレーボール愛好家も多く、仲間同士でチームを作り試合をした

いどの意見も多くあり、その声を受け、たかぎスポーツクラブと村スポーツ推進委員会が中心となり、新たに「九人制女子バレーボール大会」を行う事になりました。それにより村外のチームが参加したり、村外の人も入ったチーム作りが出来

たりする様になり、今までは違ったスポーツ交流が生まれる機会となりました。

十一月十二日、社会体育館に八チームが集まり、第一回大会が開かれました。若者からベテランまで幅広いバレーボールプレイヤーが集まり楽しんでいました。